

FACULTY OF
GLOBAL AND REGIONAL
STUDIES

グローバル地域文化学部

 DOSHISHA UNIVERSITY
同志社大学

人々の哀しみへの感応

Facing global issues together

京都で、学ぶ。

Учёба в Киото.

希望

Hoffnung

가라스마, 글로벌

烏丸、グロー

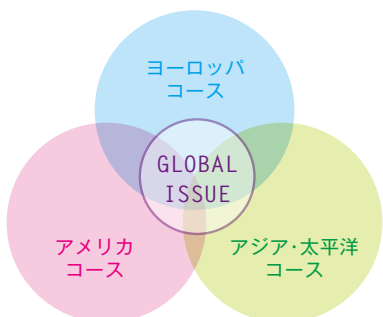
自由

良心ある知性。

Özenli zeka

地域の理解を糸口に、 グローバルな諸問題を追究する

世界の諸地域はそれぞれ独自の文化と社会を形成している一方で、互いに影響を及ぼしながら発展してきました。こうして形成されたグローバルな世界を総合的に理解するために、学生は所属コース地域の研究を軸にしながらも、地域横断的な事象や問題(グローバル・イシュー)を学びます。



各地域の言語を運用する能力

地域理解の基礎をつくる、 充実した外国語教育

地域をより深く理解するのに必要な語学力を身につけるために、質・量ともに充実した外国語のカリキュラムが用意されています。ネイティブ教員をはじめ経験豊富な教員が、外国語の運用能力を効果的に高める授業を提供します。

本学部で学べる外国語

2つの外国語の習得が目標ですが、意欲に応じて、さらに多くの言語も学べます。(裏表紙FAQのQ3を参照してください。)

英語	ドイツ語	フランス語	スペイン語
中国語	ロシア語	韓国語	インドネシア語
トルコ語	ポルトガル語	アラビア語	イタリア語

寛容と協調。

Tolerance and cooperation

Espíritu libre
な精神。

バル。

地球規模の問題はどこか遠い話ではなく、まさしく隣人との関係性のうちにもひそんでいます。すぐそばの隣人と、まだ見ぬ世界の果ての他者と、自己自身の拠って立つ足場とをつないで思考できる想像力。人々の哀しみに感応し、他者と共になにごとかを知ろうとする「良心ある知性」。その実現の困難を理解しつつ、それでもなお希望ある共生社会を構想する高い志。こうしたものが、グローバル地域文化学部での学びの課題となります。

四邻和谐

隣人との関係性。

共生。

Жизнь вместе

各地域の文化・歴史・社会への深い理解

各地域に精通した、バラエティ豊かな教員が多様なテーマの講義を展開

本学部を受験する方は3つのコース(ヨーロッパ、アジア・太平洋、アメリカ)のいずれかを出願時に選択します。各コースには、その地域の言語、文化、歴史、社会、現代事情に精通した多数の教員が所属し、それぞれの地域に密着しつつ、グローバルな諸テーマをさまざまな角度から眺める多彩な授業を展開します。

【テーマ例】

文化形成の過程・文化の多様性・言語の多様性
宗教と思想・地域紛争・ジェンダー
経済格差・環境問題

4年間で着実に力をつける

各地域の文化・歴史・社会、グローバルな問題、外国語を段階的かつ横断的に学べるように、カリキュラムが組まれています。多彩なスタッフによるオムニバス講義、大学生としての勉強の仕方学ぶ導入セミナー・入門セミナー、教員や仲間と話し合いながら研究を深める発展セミナー・専門セミナーなどがあります。

4
年次

専門的なテーマに一貫して取り組み、4年間の集大成として卒業論文を完成させます。

3
年次

専攻する地域を対象とした、自らの研究テーマを絞り込みます。

2
年次

より高度な内容を扱う講義などを通じ、専攻する地域を考察する力を高めます。

1
年次

グローバル・イシューに注目しつつ、各地域の言語や文化などの基礎を学びます。

充実の海外研修

グローバル地域文化学部では豊富で多様な海外経験の機会を設けています。

海外研修について

本学部では地域理解のための重要なツールとして語学能力を重視し、外国語運用能力を高めるために、海外インターンシップ、サマープログラム、スプリングプログラム、セメスタープログラムなど、世界の様々な地域における海外研修の機会を提供しています。

1 世界各国の大学での海外研修

同志社大学で実施している海外研修「サマープログラム」「スプリングプログラム」「セメスタープログラム」の積極的な履修を、本学部においても推奨します。研修費は別途必要ですが、経済的負担を軽減する奨学金制度も整えています。



■ サマープログラム事例（夏期休暇を利用した約1カ月間の語学研修）

スタンフォード大学／カリフォルニア大学デービス校／カリフォルニア大学サンディエゴ校／アリゾナ大学(アメリカ)、ケンブリッジ大学／ヨーク大学／ロンドン芸術大学(イギリス)、ヨーク・カレッジ大学(アイルランド)、ゲルフ大学／トンプソン・リバーズ大学(カナダ)、ディーキン大学(オーストラリア)、セブ医科大学(フィリピン)、ミュンヘン大学／マルティン・ルター大学(ドイツ)、フランシュ＝コンテ大学(フランス)、ラス・アメリカス大学(メキシコ)、ロシア国立サンクトペテルブルク経済大学(ロシア)、北京大学(中国)、延世大学(韓国)

■ スプリングプログラム事例（春期休暇を利用した短期集中の語学研修）

カリフォルニア大学アーバイン校(アメリカ)、ヨーク大学(イギリス)、セント・メアリーズ大学(カナダ)、ホーソン・メルボルン英語学校(オーストラリア)、オタゴ大学／オークランド大学(ニュージーランド)、セブ医科大学(フィリピン)、フライブルク大学(ドイツ)、CAVILAM(クレルモン・フェラン大学監修)(フランス)、サラマンカ大学(スペイン)、華東師範大学(中国)、慶熙大学(韓国)

■ セメスタープログラム(1セメスター(約4カ月間)の語学研修)

ウィニペグ大学(カナダ)、ディーキン大学(オーストラリア)、ハワイ大学(アメリカ)、チュービンゲン大学(ドイツ)

2 世界の企業や機関での海外インターンシップ

国際舞台で活躍する能力を磨くために、海外の企業や機関において就業体験をする機会を設けます。



■ 海外インターンシップ事例

メルボルン、上海

3 学部独自の海外研修プログラムも実施

現在、ウェスタン・ミシガン大学での海外語学プログラム、及び韓国の延世大学との学部間協定に基づく長期留学(半年または1年)を本学部独自のカリキュラムとして設けており、実践的な言語運用能力の向上を幅広く支援しています。



EUROPEAN STUDIES

ヨーロッパコース



古くて、新しい。それがヨーロッパ。

ヨーロッパは多くの国家・文化・言語を内包した多角的な地域であるとともに、特に近代以降において、南北アメリカ、アフリカ、アジアの諸地域との緊密な歴史的關係のなかで拡大・発展してきました。

本コースでは、グローバルな観点からヨーロッパについての理解を深めます。そのために、英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語などの言語を通じて、その地域固有の歴史・文化・社会を詳しく学びつつ、ヨーロッパと世界との関わりについて考えます。

ヨーロッパの抱える諸問題を、「協調」や「対立」といった様々な関係性において、あるいは「宗教」「移民」「植民地主義」といったグローバルな共通課題において捉えていきます。例えば、「グローバルにフランスを理解する」ためには、フランスの現代社会、そしてフランス語だけではなく、隣国のドイツや、フランスがかつて支配したアジア・アフリカの国々との関係を学ぶことが不可欠です。

ASIA-PACIFIC STUDIES

アジア・太平洋コース



躍動するアジア・オセアニアから世界の今、歴史、未来について考えよう。

皆さんは「アジア」と聞いてどんなことを思い浮かべるでしょうか。グローバル化が進化する今日、アジア・オセアニア地域は、かつてのイメージとは異なり、世界経済の一大センターの地位にあると言っても過言ではありません。しかし経済発展や近代化に伴い、ローカルな社会や文化は、急激な変化にさらされてきました。その一方、隣接する地域間で抱える葛藤は今も残り、時にそれは政治的対立、さらには紛争といった形で顕在化しています。

こうした課題に、私たちはどう関わっていくべきでしょうか。本コースでは、アジア・オセアニア地域の各国の情勢だけでなく、文化衝突、歴史認識、民族移動、国際関係論などについて最新の知見を取り入れ、多角的に考察を行いながら、解決の方法を探っていきます。こうした学びは、私たちのあるべき未来を構築することへとつながるはずです。

AMERICAS STUDIES

アメリカコース



21世紀のアメリカ大陸を「発見」する。

本学部では、「アメリカ」を南北アメリカ大陸およびその周辺島嶼地域を含む「アメリカス(The Americas)」にとらえます。

大航海時代を経て、世界は地球規模の市場へと統合されました。カリブ海の砂糖、アメリカ大陸原産のジャガイモやトマトなどは世界の食文化を大きく変え、金銀の大量生産はグローバル規模の貨幣経済を発展させました。また近代以降、アメリカ合衆国は、政治・経済・軍事面だけでなく、音楽・ファッションなどの分野でも、グローバルな規模で影響力を持つようになってきました。メキシコ系移住者をはじめ、移民を抜きにして現在のアメリカは語れません。また、かつて日本人が移民として向かったブラジルなどの南米の国々も、経済のみならず文化の面でも存在感を増しています。

本コースでは、歴史、人種や民族、ジェンダー、大衆文化、国際政治などについて学びつつ、「アメリカス」を地域内の多様性と他地域との関係から考察します。現在の社会問題や文化現象について、様々な角度から考えたい方を歓迎します。

STUDENT'S VOICE



世界との関わりを、「自分ごと」として捉える

ヨーロッパコース4年次生(学年は取材時) 中島雪乃さん

小中学校時代の約6年半をアメリカと中国で過ごし、異文化との関わりの中で「日本人としての自分」を強く意識したこと、また高校でヨーロッパの歴史に関心を持ったことから、その学びを深められる本学部に進学しました。

本学部では、ヨーロッパ地域における文化や歴史、言語を学び、また現代の西欧社会における課題と向き合うことで、自分とは異なる他者に寄り添う大切さを実感しました。2年次生ではケンブリッジ大学へ留学し、政治学と国際関係学の知識を深めるとともに、多様な価値観やバックグラウンドをもつ人との出会いを通じて、他者を理解するための多角的な視点を身につけました。現在はゼミにおいて、学びの集大成となる論文執筆を通して、世の中の問題を「自分ごと」として捉えることを学んでいます。

大学卒業後は日系飲料メーカーに勤める予定です。本学部で培った国際的な感覚や語学力、そして「他者を想う力」を活かし、新天地でも挑戦を続けたいと思います。



ヨーロッパコース
清水 穰 教授

世界はどこへ向かうのかそのひとつのモデルがヨーロッパにあります。

STUDENT'S VOICE



主体的に学び、行動した5年間

アジア・太平洋コース4年次生(学年は取材時) 中島咲寧さん

日本と密接な関係にありながら、それまで主に政治・経済の面での関わりの中でしか知る機会の少なかったアジア地域について、現地の文化や人々の生活を学んでみたいと思い本学部に進学しました。

1年次にベトナムでの短期研修に参加し、東南アジア地域が持つ宗教や民族、文化の多様性、成長著しい国家経済を動かす人々の活気に魅了され、当地域に強い関心を抱くようになりました。その後は知的好奇心の赴くままに学部内外の講義を積極的に受講し、2年次にはフィリピンへの派遣留学や現地インターン、4年次には休学してマレーシアにて卒業研究の現地調査を目的とした留学を経験しました。行動的に過ごした大学生活の中で、一歩踏み出す勇気が必要な場面も多々ありましたが、向上心の高い同期や先輩方、相談に乗ってくださる先生方に支えられ、主体性を持って次なる進路を切り拓いていくことが出来ました。

卒業後は大学院に進学し、マレーシアでの調査を元にした卒業論文のテーマに関する研究を続けます。東南アジア地域の多民族社会における国家と民族の関係について、自らの問いをより専門的に探究していきたいと考えています。



アジア・太平洋コース
渡辺 文 助教

いま躍動するアジア・オセアニアを知るには、グローバルと地域をつなぐ思考が不可欠です。

STUDENT'S VOICE



海の向こうで「日本」に出会って

アメリカコース3年次生(学年は取材時) 出川耀子さん

高校生の頃に留学したカナダで、私は「日本」を見つけました。日本食や祭りなどが日系文化として根付いていて、誰がどのようにして日系文化を北米に広めたのか興味がわき、本学部のアメリカコースに進学しました。

大学では、アメリカ以外にも、アジア、ヨーロッパに関する講義をさまざまな言語で学べます。1年次生の頃は広く様々な地域と分野について学習するのですが、上級生になるにつれて自分の知りたいことへの「問い」を立てていくことが必要となります。自分の持っている知識の中で、別々に学んだことでも結びつけて考えると、新たな気づきがあり、広い視野を持つことの重要性を実感しています。大学での学びを通じて初めて、知識は蓄えるだけではなく、活用してこそ意味があるものだと気づきました。同時に日系文化について調べるうちに日本に対する新たな視点を持つこともできました。

卒業後は進学し、北米における日系文化についてより深く学んでいきたいと考えています。



アメリカコース
宇佐見 耕一 教授

グローバルな問題とローカルな問題を、様々な視点から南北アメリカを見ることにより考えていきましょう。

学びの成果

グローバル地域文化学部での学びの成果をご紹介します。

卒業論文テーマ例

グローバル地域文化学部に入學すると、バラエティ豊かな数々の授業を受講し、1年次から始まる少人数のセミナーで教員や仲間と議論します。そして3、4年次には主に指導教員のゼミでそれぞれが問題関心を掘り下げて論文を執筆し、最後に卒業論文報告会で各自の作品を発表します。本学部は卒業論文が必修です。

<ヨーロッパコース>

- 統合・分断・和解のはざまで揺れ動く第二次世界大戦の記憶 —— ロシアと中・東欧諸国における事例から
- 北欧諸国の不可視的支配に対する抵抗のあり方 —— サーミ作家N.A. ヴァルケアパー作品『ラップランドからの便り』の考察を中心に
- アトリエ・ド・ルミエールから見るデジタルアートの可能性
- ドイツにおけるシンティ・ロマに対する社会的認識 —— 戦後補償と記念碑論争を通じて
- 文化的人種差別としてのイスラモフォビア —— British National Partyの言説分析を通じて
- フランスにおけるポルトガル移民のアイデンティティ形成とその変容 —— 映画La cage doréeを通して

<アジア・太平洋コース>

- 『ムーラン』からみる植民地性と「東洋化」
- 日韓関係認識の世代間格差と2010年代から現在までの世論の変容
—— 日韓世論が与える硬化した日本の外交方針と韓国における低下していく対日関係の重要性への影響——
- マレー人とは誰か——境界に立つインド系ムスリム住人の視点から——
- 日本の子どもの英語学習意欲と多言語学習への関心
- 韓国の就活生における高スペック化と企業のグローバル化
- 一帯一路政策がもたらすインパクトと中央アジア諸国に関する影響

<アメリカコース>

- Film Induced Tourism: The Case in Mexico
- ブラジルにおける開発主義から環境保全主義への転換
- カナダ日系コミュニティは存続するか ——バンクーバーの2つの祭りを通して
- エクアドルにおけるコリア政権下での教育政策
- アメリカのゴジラは核をどのように語っているのか
- 人種的マイノリティによるローカルフード運動——オレゴン州ポートランド市の事例を用いて



進路

グローバル地域文化学部の卒業生は、様々な業種、海外展開している企業、公務員など、多くの分野で活躍しています。

また、グローバル地域文化学部の学びを土台にして、さらに専門知識を深めるために、大学院に進学する学生もいます。

主な就職先・進学先

- 極洋
- 住友化学
- エステー
- 東洋紡
- LIXIL
- 日本触媒
- 三菱電機
- パナソニック
- ローム
- 村田製作所
- クボタ
- ダイキン工業
- ニコン
- TDK
- 京セラ
- サントリー
- キッコーマン
- 三井物産
- イオン
- ニトリ
- 良品計画
- SMBC信託銀行
- 三井住友海上火災保険
- 三井住友銀行
- 京都銀行
- ソフトバンク
- 主婦と生活社
- ビズリーチ
- 成基
- 日本マクドナルド
- 星野リゾートグループ
- 楽天グループ
- 産業技術総合研究所
- 東洋不動産
- 佐川グローバルロジスティクス
- 阪急電鉄
- 関西電力
- 東京電力
- 京都府
- 大学院進学(京都大学大学院
アジア・アフリカ地域研究科)



背景を受け入れ課題にアプローチする力

山内美佳さん
(ヨーロッパコース2019年卒業)

卒業後IT会社に勤め、自動車製造業向けの営業を経験し、現在は脱炭素に向けたコンサルティングをしています。お客様より各社が抱える課題に対する解決の提示を求められますが、在学中に、物事の背景を理解し欧州の諸課題にアプローチした経験が活きていると感じています。様々な要素が複雑に絡み合いながら課題が生じることは、国や地域のみならず一企業においても同じです。「実際に現地へ赴き多角的な知識や言語を身につけ、背景を理解する力を養い、より良い方策を議論するステップ」は、グローバル地域文化学部だからこそ培うことができた社会で活躍するときの強みだと感じます。



他者への感応力という、人生の指針

河崎涼太さん
(アジア・太平洋コース2020年卒業)

卒業後は大学院で文化人類学を学び、来年度からはテレビ局で、ドキュメンタリーを中心とした番組制作に携わります。在学時、「先住民を知り、多様性を考えたい」という思いで私はニュージーランドに交換留学し、マオリの村でのフィールドワークを経験しました。しかし現地では、共生や多様性という言葉が、生半可ではないものだと思えて痛感したとき、それでも人々に寄り添い、感応するという本学部の指針が、フィールドのみならず、私の人生の羅針盤となっています。



優秀な学友溢れる学部

中城あすかさん
(アメリカコース2017年卒業)

卒業後、大手メーカーで勤務し、現在は政府系機関に所属してカナダのトロントで働いています。前職も現職も海外の方とやり取りをすることが多く、在学中に学んだ広い視野で物事を考える力が役立っています。この学部には海外志向の強い学生や行動力のある学生が多いです。私自身、卒業後も国内外で活躍する同級生から刺激を受け、海外勤務を決心しました。そういった、「学び」だけではなく、自分を鼓舞してくれる人との「出会い」もグローバル地域文化学部には溢れています。

FAQ よくある質問

受験生の方からよくある質問をまとめました。グローバル地域文化学部のイメージを膨らませてください。

Q1 入試の種類について教えてください。

各コースとも、一般選抜入試、大学入学共通テストを利用する入試、公募制推薦選抜入試(推薦選抜入試、自己推薦(アスリート)入試)などを実施します。各入試ともコース毎に募集を行います。入学後のコース変更はできません。

Q2 本学部の特徴を教えてください。

グローバル地域文化学部は、外国語学部のようにコミュニケーションのツールとして言語を中心に学ぶだけではなく、国際系学部のように国際関係論や国際問題を中心に学ぶだけではありません。本学部は、各地域にある諸問題や、グローバル化の時代に登場してきた新たな課題を、その地域に特有な歴史的な文脈や文化的背景を視野に入れて考察していく学部です。同時に、他の地域・文化圏とのグローバルな結びつきや摩擦についても理解を深めていきます。英語を含め複数の外国語を学ぶことで、日本を含め、世界各地の文化・歴史・課題を複眼的かつ多層的に理解する視座を得ることができます。

Q3 学べる外国語について教えてください。

どのコースでも、12の言語から最低2つの言語を学びます。重点的に学ぶ言語を第一外国語、もう1つの言語を第二外国語と呼びます。言語の選択には次のような条件があります。

- 第一、第二外国語のどちらかに英語を選択します。
- 各コースで英語以外に選択できる第一外国語は次の通りです。
ヨーロッパコース:ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語
アジア・太平洋コース:中国語、韓国語
アメリカコース:スペイン語
- 英語を第一外国語とする場合、各コースで選択を推奨する第二外国語も上記と同じです。
- インドネシア語、トルコ語、ポルトガル語、アラビア語、イタリア語は、第二外国語としてのみ履修可能です。

Q4 留学する場合、4年間で卒業できますか。

もちろん可能です。本学部では短期の語学留学から、海外協定大学への長期派遣留学まで、様々なプログラムが用意されていますが、いずれの留学を選ぶにせよ、4年間で卒業するためには計画的な単位取得を心がける必要があります。就職活動や卒業論文執筆に十分な時間をかけるため、あえて卒業を遅らせる学生もいますが、それはあくまでも各人の判断にゆだねられています。

Q5 教員免許は取れますか。

中学校教諭(社会)および高等学校教諭(地理歴史)の免許取得が可能です。

その他の質問事項もホームページ上に詳しく掲載しています。最新情報も更新していますので是非一度確認してください。
<https://gr.doshisha.ac.jp/>



グローバル地域文化学部公式Facebookでは学部生の生の声や活躍を紹介しています。



スマートフォンはこちらが便利



同志社創立以来の伝統と格式を誇る今出川キャンパスに程近い、烏丸キャンパスを中心に、グローバル地域文化学部の教育は展開されます。烏丸キャンパスは、グローバル地域文化学部のほか、大学院総合政策科学研究科、グローバル・スタディーズ研究科、国際教育インスティテュートの拠点として、同志社大学の「国際主義」を象徴するキャンパスです。

